



Astra Trident の詳細をご確認ください Astra Trident

NetApp
March 05, 2026

目次

Astra Trident の詳細をご確認ください	1
Astra Trident の詳細をご確認ください	1
アストラとは	1
Astra Tridentとは	1
Astra TridentのTest Driveプログラム	1
KubernetesとNetApp製品の統合	2
詳細情報	3
Astra Tridentのアーキテクチャ	3
コントローラポッドとノードポッドについて	3
サポートされる Kubernetes クラスタアーキテクチャ	6
概念	6
プロビジョニング	6
ボリューム Snapshot	7
仮想プール	8
ボリュームアクセスグループ	10

Astra Trident の詳細をご確認ください

Astra Trident の詳細をご確認ください

Astra Tridentは、の一部としてNetAppが管理している、フルサポートのオープンソースプロジェクト"[Astra 製品ファミリー](#)"です。Container Storage Interface (CSI) などの業界標準のインターフェイスを使用して、コンテナ化されたアプリケーションの永続性要求を満たすように設計されています。

アストラとは

Astra を使用すると、Kubernetes で実行されている大量のデータコンテナ化ワークロードを、パブリッククラウドとオンプレミス間で簡単に管理、保護、移動できます。

Astraは、Astra Tridentを基盤に構築された永続的コンテナストレージをプロビジョニング、提供します。また、Snapshot、バックアップとリストア、アクティビティログ、アクティブクローニングなどの高度なアプリケーション対応データ管理機能も提供し、データ保護、ディザスタ/データリカバリ、データ監査、Kubernetesワークロードの移行のユースケースに対応します。

詳細については、[をご覧ください "Astraをご利用いただくか、無償トライアルにご登録ください"](#)。

Astra Tridentとは

Astra Tridentでは、パブリッククラウドやオンプレミスにあるONTAP (AFF、NetApp FAS、Select、Cloud、Amazon FSx for NetApp ONTAP)、Elementソフトウェア (NetApp HCI、SolidFire)、Azure NetApp Filesサービス、Cloud Volumes Service on Google Cloud

Astra Tridentは、とネイティブに統合される、コンテナストレージインターフェイス (CSI) 準拠の動的ストレージオーケストレーションツール"[Kubernetes](#)"です。Astra Tridentは、単一のコントローラポッドと、クラスタ内の各ワーカーノード上のノードポッドとして実行されます。詳細については、[を参照してください "Astra Tridentのアーキテクチャ"](#)。

Astra Tridentは、NetAppストレージプラットフォーム向けのDockerエコシステムと直接統合することもできます。NetApp Docker Volume Plugin (nDVP) は、ストレージプラットフォームからDockerホストへのストレージリソースのプロビジョニングと管理をサポートします。詳細については、[を参照してください "Astra Trident for Docker を導入"](#)。



Kubernetesを初めて使用する場合は、[について理解しておく必要があります"Kubernetesの概念とツール"](#)。

Astra TridentのTest Driveプログラム

Test Driveプログラムを利用するには、すぐに使用できるラホイメージを使用して、「コンテナ化されたワークロード向けの永続的ストレージの簡単な導入とクローニング」へのアクセスをリクエストしてください"[ネットアップのテスト用ドライブ](#)"。このテストドライブは、3ノードのKubernetesクラスタとAstra Tridentがインストールおよび設定されたサンドボックス環境を提供します。これは、Astra Tridentについて理解を深め、その機能を確認するための優れた方法です。

もう1つのオプションは、"[kubeadm インストールガイド](#)"Kubernetesが提供するです。



これらの手順を使用して構築したKubernetesクラスタは、本番環境では使用しないでください。本番環境向けクラスタ向けに、ディストリビューションから提供されている本番環境導入ガイドを使用します。

KubernetesとNetApp製品の統合

NetAppのストレージ製品ポートフォリオは、Kubernetesクラスタのさまざまな要素と統合されているため、高度なデータ管理機能が提供され、Kubernetes環境の機能、機能、パフォーマンス、可用性が強化されます。

NetApp ONTAP 対応の Amazon FSX

"NetApp ONTAP 対応の Amazon FSX"は、NetApp ONTAPストレージオペレーティングシステムを基盤とするファイルシステムを起動して実行できる、フルマネージドのAWSサービスです。

Azure NetApp Files

"Azure NetApp Files"は、NetAppを基盤とするエンタープライズクラスのAzureファイル共有サービスです。要件がきわめて厳しいファイルベースのワークロードも、ネットアップが提供するパフォーマンスと充実のデータ管理機能を使用して、Azure でネイティブに実行できます。

Cloud Volumes ONTAP

"Cloud Volumes ONTAP"は、クラウドでONTAPデータ管理ソフトウェアを実行するソフトウェア型のストレージアプライアンスです。

Cloud Volumes Service for Google Cloud

"NetApp Cloud Volumes Service for Google Cloud"は、NFSおよびSMB経由でNASボリュームを提供するクラウドネイティブのファイルサービスで、オールフラッシュのパフォーマンスを実現します。

Element ソフトウェア

"要素"ストレージ管理者は、パフォーマンスを保証し、シンプルで合理的なストレージ設置面積を実現することで、ワークロードを統合できます。

NetApp HCI

"NetApp HCI"日常業務を自動化し、インフラ管理者がより重要な業務に集中できるようにすることで、データセンターの管理と拡張を簡易化します。

Astra Tridentでは、コンテナ化されたアプリケーション用のストレージデバイスを、基盤となるNetApp HCIストレージプラットフォームに直接プロビジョニングして管理できます。

NetApp ONTAP

"NetApp ONTAP"は、NetAppのマルチプロトコルユニファイドストレージオペレーティングシステムで、あらゆるアプリケーションに高度なデータ管理機能を提供します。

ONTAP システムには、オールフラッシュ、ハイブリッド、オール HDD のいずれかの構成が採用されており、自社開発のハードウェア（FAS と AFF）、ノーブランド製品（ONTAP Select）、クラウドのみ（Cloud Volumes ONTAP）など、さまざまな導入モデルが用意されています。Astra Tridentは、これらのONTAP導入モデルをサポートしています。

詳細情報

- ["ネットアップアストラ製品ファミリー"](#)
- ["Astra Control Service のマニュアル"](#)
- ["Astra Control Center のドキュメント"](#)
- ["Astra API ドキュメント"](#)

Astra Tridentのアーキテクチャ

Astra Tridentは、単一のコントローラポッドと、クラスタ内の各ワーカーノード上のノードポッドとして実行されます。Astra Tridentボリュームをマウントするすべてのホストでノードポッドが実行されている必要があります。

コントローラポッドとノードポッドについて

Astra Tridentは、Kubernetesクラスタに単一または複数Tridentノードポッドとして導入されTridentコントローラポッド、標準のKUBSI_CSI Sidecar Containers_を使用してCSIプラグインの導入を簡易化します。"Kubernetes CSIサイドカーコンテナ"Kubernetes Storageコミュニティが管理しています。

Kubernetes"ノードセクタ"を使用して、"寛容さと汚れ"ポッドを特定のノードまたは優先ノードで実行するように制限します。コントローラポッドとノードポッドのノードセクタと許容範囲は、Astra Tridentのインストール時に設定できます。

- コントローラプラグインは、Snapshotやサイズ変更などのボリュームのプロビジョニングと管理を処理します。
- ノードプラグインによって、ノードへのストレージの接続が処理されます。

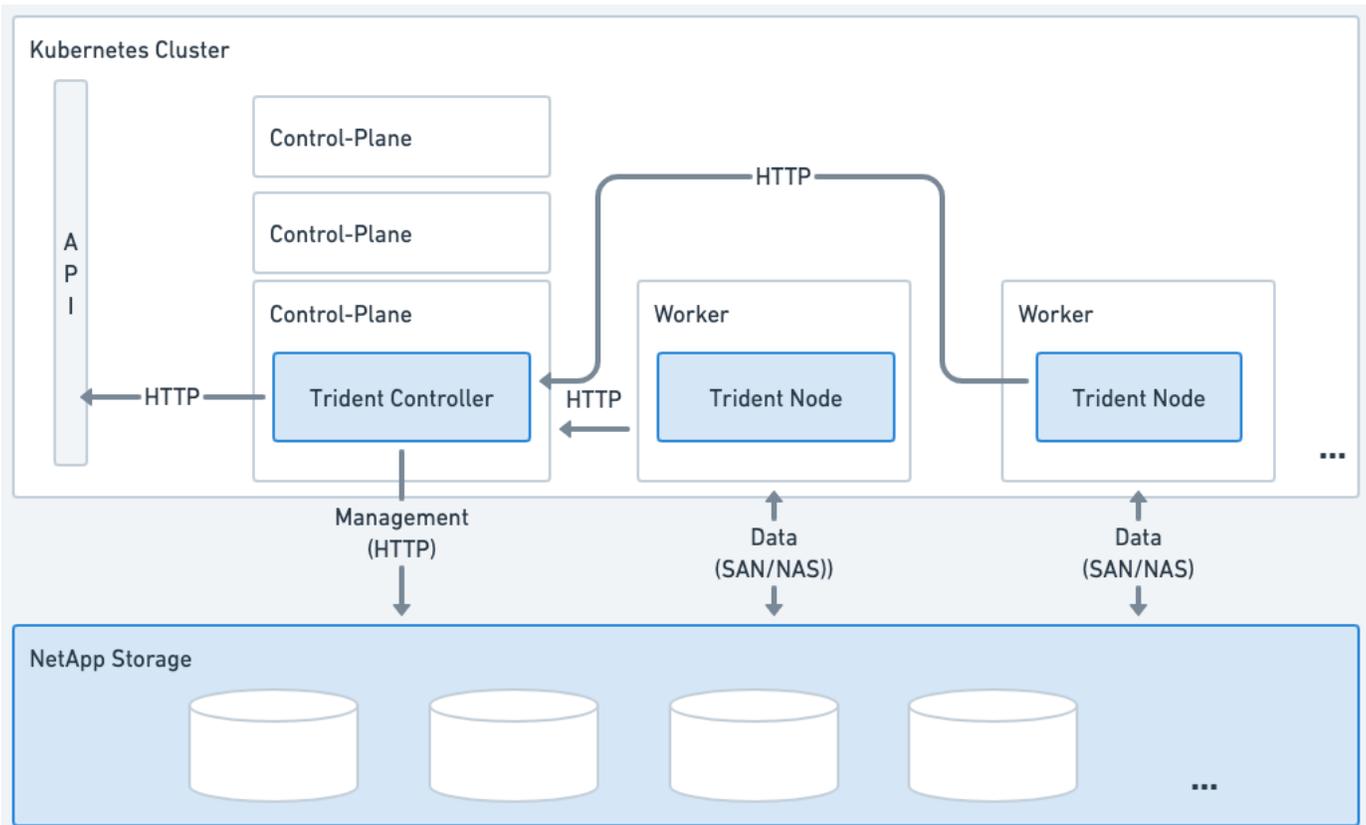


図 1. Kubernetes クラスタに導入される Astra Trident

Trident コントローラポッド

Trident コントローラポッドは、CSI コントローラプラグインを実行する単一のポッドです。

- NetApp ストレージ内のボリュームのプロビジョニングと管理を担当
- Kubernetes 環境で管理
- インストールパラメータに応じて、コントロールプレーンノードまたはワーカーノードで実行できます。

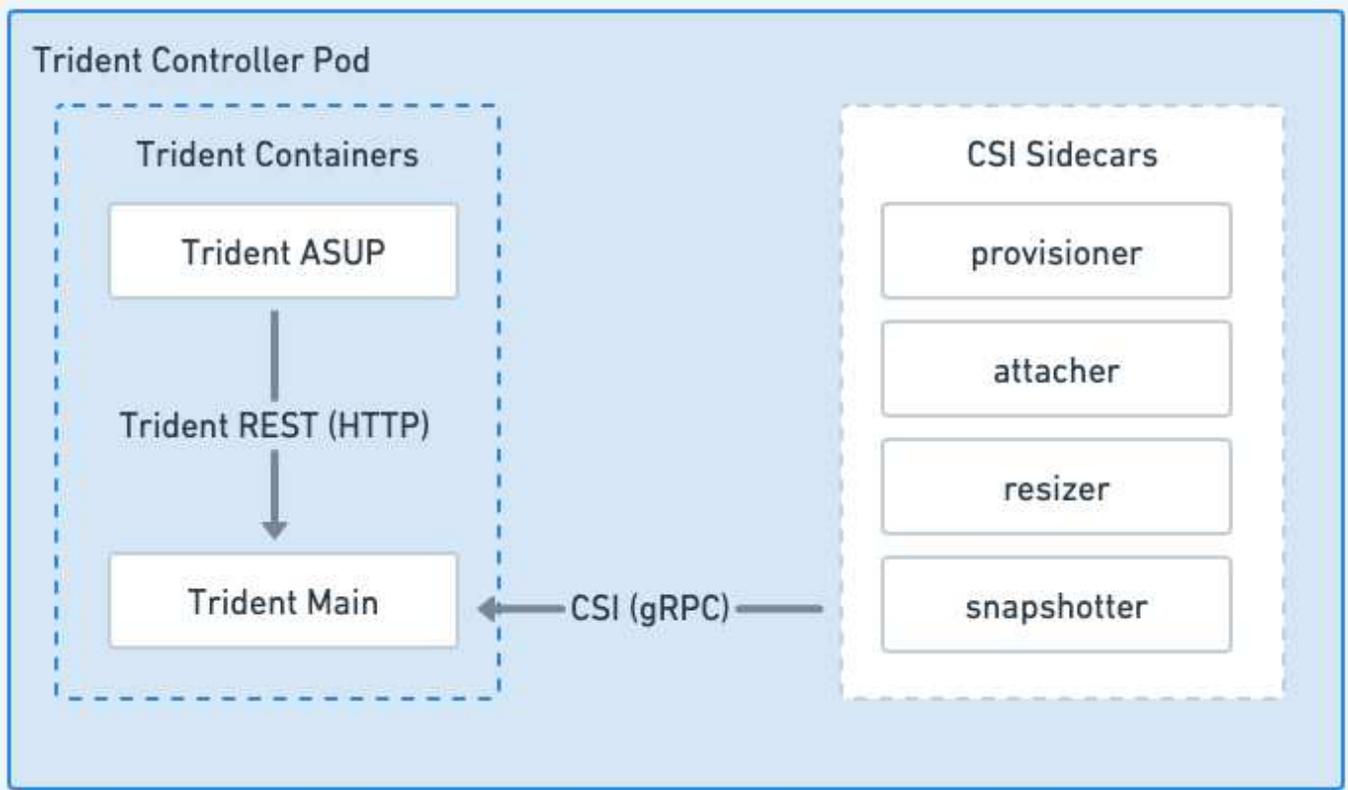


図 2. Tridentコントローラポッドの図

Tridentノードポッド

Tridentノードポッドは、CSIノードプラグインを実行する特権ポッドです。

- ホストで実行されているPodのストレージのマウントとアンマウントを担当します。
- Kubernetesデーモンセットで管理
- NetAppストレージをマウントするすべてのノードで実行する必要がある

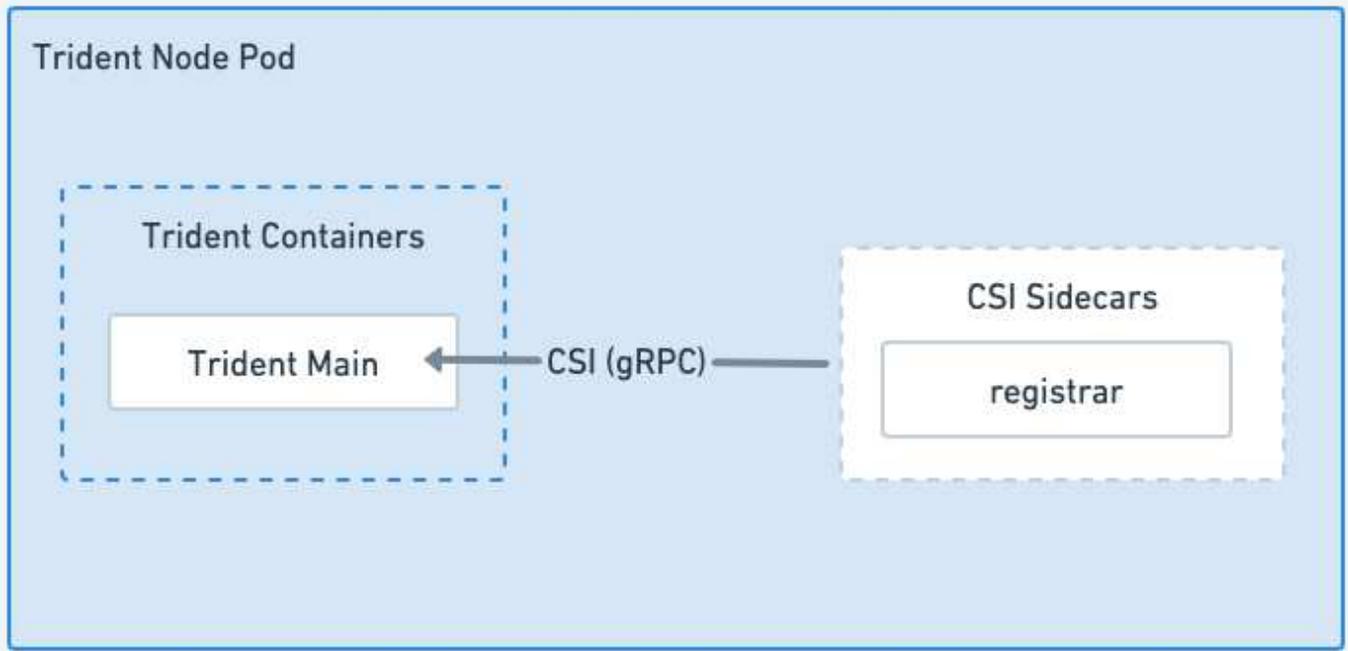


図 3. Tridentノードのポッド図

サポートされる **Kubernetes** クラスタアーキテクチャ

Astra Trident は、次の Kubernetes アーキテクチャでサポートされています。

Kubernetes クラスタアーキテクチャ	サポート対象	デフォルトのインストールです
単一マスター、コンピューティング	はい	はい
複数のマスター、コンピューティング	はい	はい
マスター、`etcd`コンピューティング	はい	はい
マスター、インフラ、コンピューティング	はい	はい

概念

プロビジョニング

Trident の Astra プロビジョニングの主なフェーズは 2 つあります。最初のフェーズでは、ストレージクラスを適切なバックエンドストレージプールのセットに関連付け、プロビジョニング前の必要な準備として実行します。2番目のフェーズではボリュームの作成自体が行われ、保留状態のボリュームのストレージクラスに関連付けられたストレージプールの中からストレージプールを選択する必要があります。

ストレージクラスの関連付け

バックエンドストレージプールをストレージクラスに関連付けるには、ストレージクラスの要求された属性と、`additionalStoragePools`の`excludeStoragePools`リストの両方が`storagePools`が必要です。ストレージクラスを作成すると、Tridentはバックエンドごとに提供される属性とプールを、ストレージクラスから要求された属性とプールと比較します。要求された属性とプール名がストレージプールの属性と名前ですべて一致した場合、Astra Tridentがそのストレージプールを、そのストレージクラスに適した一連のストレージプールに追加します。さらに、Astra Tridentは、リストに表示されているすべてのストレージプールをそのセットに追加します。プール`additionalStoragePools`の属性がストレージクラスの要求された属性のすべてまたは一部を満たしていない場合でも同様です。このリストを使用して、ストレージクラスでのストレージプールの使用を無効にしたり削除したりする必要があり`excludeStoragePools`ます。Astra Tridentでは、新しいバックエンドを追加するたびに同様のプロセスが実行され、ストレージプールが既存のストレージクラスのストレージクラスを満たしているかどうかを確認され、除外済みとマークされているストレージが削除されます。

ボリュームの作成

Tridentがさらに、ストレージクラスとストレージプールの間の関連付けを使用して、ボリュームのプロビジョニング先を決定します。ボリュームを作成すると、最初にそのボリュームのストレージクラス用の一連のストレージプールがTridentから取得されます。また、ボリュームにプロトコルを指定した場合、Astra Tridentは要求されたプロトコルを提供できないストレージプールを削除します（たとえば、NetApp HCI / SolidFire バックエンドはファイルベースのボリュームを提供できませんが、ONTAP NAS バックエンドはブロックベースのボリュームを提供できません）。Tridentがこのセットの順序をランダム化し、ボリュームを均等に分散してから、各ストレージプールでボリュームを順番にプロビジョニングしようとしています。成功した場合は正常に返され、プロセスで発生したエラーが記録されます。Astra Tridentは、要求されたストレージクラスとプロトコルで使用可能なすべてのストレージプールで*プロビジョニングに失敗した場合にのみ、障害*を返します。

ボリューム Snapshot

Tridentがドライバ用のボリュームスナップショットの作成をどのように処理するかについては、こちらをご覧ください。

ボリュームSnapshotの作成方法について説明します

- `ontap-san`、`gcp-cvs`、`azure-netapp-files`ドライバの場合、`ontap-nas`各永続ボリューム (PV) はFlexVolにマッピングされます。その結果、ボリューム Snapshot はネットアップ Snapshot として作成されます。NetAppのスナップショット・テクノロジーは競合するスナップショット・テクノロジーよりも安定性'拡張性'リカバリ性'パフォーマンスを提供しますSnapshot コピーは、作成時とストレージスペースの両方で非常に効率的です。
- ドライバの場合 `ontap-nas-flexgroup`、各永続ボリューム (PV) はFlexGroupにマッピングされます。その結果、ボリューム Snapshot はNetApp FlexGroup Snapshot として作成されます。NetAppのスナップショット・テクノロジーは競合するスナップショット・テクノロジーよりも安定性'拡張性'リカバリ性'パフォーマンスを提供しますSnapshot コピーは、作成時とストレージスペースの両方で非常に効率的です。
- ドライバの場合 `ontap-san-economy`、PVSは共有FlexVolに作成されたLUNにマッピングされます。PVSのボリューム Snapshot は、関連付けられたLUNのFlexCloneを実行することで実現されます。ONTAP FlexCloneテクノロジーを使用すると、大規模なデータセットのコピーをほぼ瞬時に作成できます。コピーと親でデータブロックが共有されるため、メタデータに必要な分しかストレージは消費されません。
- ドライバの場合 `solidfire-san`、各PVは、NetApp Elementソフトウェア/ NetApp HCIクラスタ上に作成されたLUNにマッピングされます。ボリューム Snapshot は、基盤となるLUNのElement Snapshotで

表されます。これらの Snapshot はポイントインタイムコピーであり、消費するシステムリソースとスペースはごくわずかです。

- ドライバと `ontap-san` ドライバを使用する場合、`ontap-nas` ONTAP スナップショットは FlexVol のポイントインタイムコピーであり、FlexVol 自体のスペースを消費します。その結果、ボリューム内の書き込み可能なスペースが、Snapshot の作成やスケジュール設定にかかる時間を短縮できます。この問題に対処する簡単な方法の 1 つは、Kubernetes を使用してサイズを変更することでボリュームを拡張することです。もう 1 つの方法は、不要になった Snapshot を削除することです。Kubernetes で作成されたボリューム Snapshot を削除すると、関連付けられている ONTAP Snapshot が Astra Trident から削除されます。Kubernetes で作成されていない ONTAP スナップショットも削除できます。

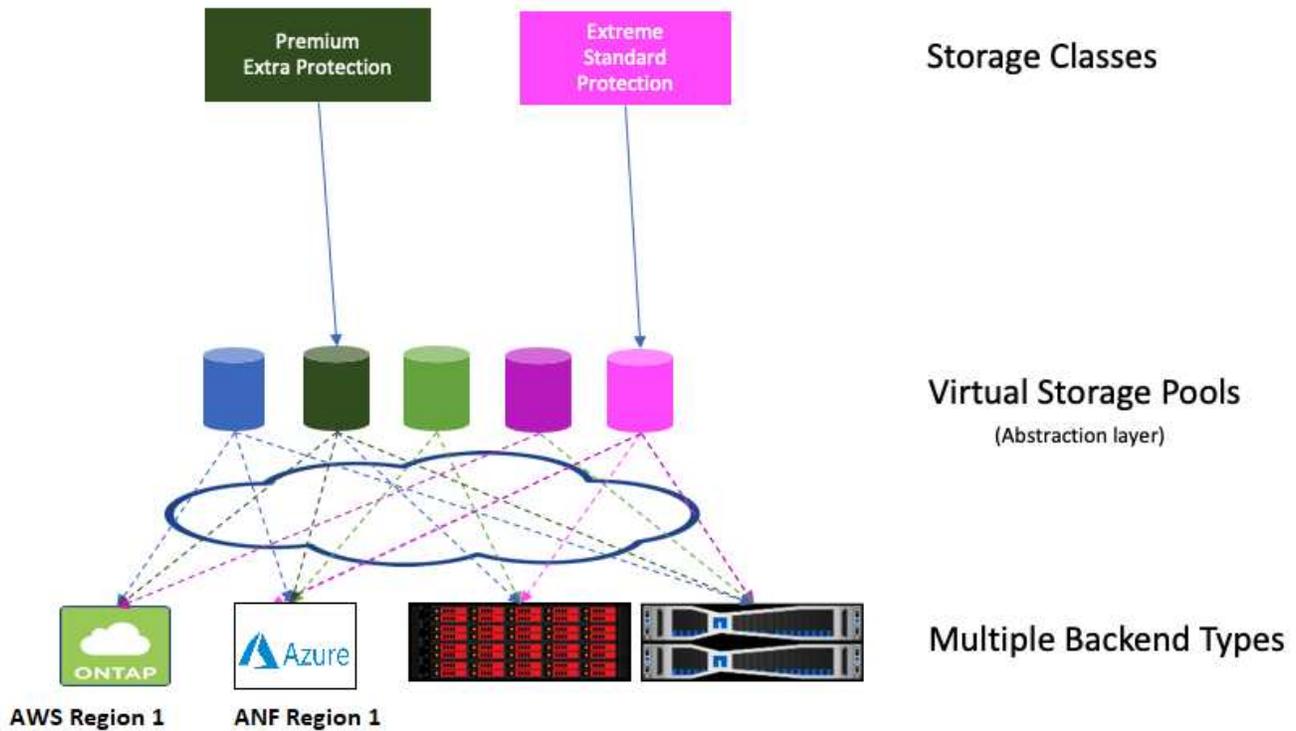
ネットアップの Trident では、ボリューム Snapshot を使用して PVS を新規作成できます。これらの Snapshot から PVS を作成するには、サポート対象の ONTAP および CVS バックエンドに対して FlexClone テクノロジーを使用します。Snapshot から PV を作成する場合、元のボリュームは Snapshot の親ボリュームの FlexClone1 になります。`solidfire-san` ドライバは、Element ソフトウェアのボリュームクローンを使用して Snapshot から PVS を作成します。ここで、Element Snapshot からクローンを作成します。

仮想プール

仮想プールは、Astra Trident のストレージバックエンドと Kubernetes の間に抽象化レイヤを提供します StorageClasses。管理者は、必要な基準を満たすために使用する物理バックエンド、バックエンドプール、またはバックエンドタイプを指定することなく、バックエンドに依存しない共通の方法で、各バックエンドの場所、パフォーマンス、保護などの側面を定義でき `StorageClass` ます。

仮想プールについて説明します

ストレージ管理者は、任意の Astra Trident バックエンドに JSON または YAML 定義ファイルで仮想プールを定義できます。



仮想プールリストの外部で指定されたすべての要素はバックエンドにグローバルであり、すべての仮想プールに適用されます。一方、各仮想プールは、1つまたは複数の要素を個別に指定できます（バックエンドグローバルな要素を上書きします）。



- 仮想プールを定義する場合は、バックエンド定義内の既存の仮想プールの順序を変更しないでください。
- 既存の仮想プールの属性を変更しないことをお勧めします。変更を行うには、新しい仮想プールを定義する必要があります。

ほとんどの項目はバックエンド固有の用語で指定されます。重要なことに、アスペクト値はバックエンドのドライバの外部に公開されず、での照合に使用できません StorageClasses。代わりに、管理者は仮想プールごとに1つ以上のラベルを定義します。各ラベルはキー：値のペアで、ラベルは一意的バックエンド間で共通です。側面と同様に、ラベルはプールごとに指定することも、バックエンドに対してグローバルに指定することもできます。名前と値があらかじめ定義されている側面とは異なり、管理者は必要に応じてラベルキーと値を定義する完全な裁量を持っています。ストレージ管理者は、仮想プールごとにラベルを定義したり、ポリシーをラベルでグループ化したりできます。

は StorageClass、セレクタパラメータ内のラベルを参照して、使用する仮想プールを識別します。仮想プールセレクタでは、次の演算子がサポートされます。

演算者	例	プールのラベル値は次のとおりです。
=	パフォーマンス = プレミアム	一致
!=	パフォーマンス != 非常に優れています	一致しません
in	場所 (東部、西部)	値のセットに含まれています

運用者	例	プールのラベル値は次のとおりです。
notin	パフォーマンス記名（シルバー、ブロンズ）	値のセットに含まれていません
<key>	保護	任意の値で存在します
!<key>	!保護	存在しません

ボリュームアクセスグループ

Astra Tridentの使用方法の詳細をご確認 ["ボリュームアクセスグループ"](#) ください。



CHAP を使用する場合は、このセクションを無視してください。CHAP では、管理を簡易化し、以下に説明する拡張の制限を回避することが推奨されます。また、CSI モードで Astra Trident を使用している場合は、このセクションを無視できます。Astra Trident は、強化された CSI プロビジョニングツールとしてインストールされた場合、CHAP を使用します。

ボリュームアクセスグループについて学習する

Astra Trident は、ボリュームアクセスグループを使用して、プロビジョニングするボリュームへのアクセスを制御できるCHAPが無効な場合は、構成で1つ以上のアクセスグループIDを指定しないかぎり、というアクセスグループが検索され `trident` ます。

Astra Tridentは、設定されたアクセスグループに新しいボリュームを関連付けますが、アクセスグループ自体の作成や管理は行いません。アクセスグループには、ストレージバックエンドをAstra Tridentに追加する前に存在する必要があります。また、そのバックエンドでプロビジョニングされたボリュームをマウントできる可能性があるKubernetesクラスタ内のすべてのノードのiSCSI IQNが含まれている必要があります。ほとんどのインストール環境では、クラスタ内のすべてのワーカーノードがこれに含まれます。

Kubernetes クラスタに 64 個を超えるノードがある場合は、複数のアクセスグループを使用する必要があります。各アクセスグループには最大 64 個の IQN を含めることができ、各ボリュームは 4 つのアクセスグループに属することができます。最大 4 つのアクセスグループを設定すると、クラスタ内の任意のノードから最大 256 ノードのサイズのすべてのボリュームにアクセスできるようになります。ボリュームアクセスグループの最新の制限については、を参照してください ["ここをクリック"](#)。

デフォルトのアクセスグループを使用しているアクセスグループから他のアクセスグループを使用しているアクセスグループに設定を変更する場合 `trident` は、リストにアクセスグループのIDを含め `trident` ます。

著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。